

怪我から学んだ税のこと

富山市立北部中学校 3年 野村 桃花

私が税金について興味をもつようになったのは、足の怪我がきっかけだった。今年の春、私の不注意でガラスで怪我をしてしまった。傷が深かったので病院に行き、縫合して薬をもらった。縫合の治療をし、薬ももらったので、かなりお金がかかったのではないかと両親に申し訳なく思い、

「あのときっていくらかかったん？」と母に尋ねると、

「富山市は中学生まで医療費の自己負担が無料なんだよ。」と言われた。

そこで、この作文を書くにあたり、いろんな種類の税がある中で医療費に使われている税が気になり、調べてみることにした。

私の住んでいる富山市では、中学三年生まで医療費が助成されている。母は、この制度はとても助かっているけれど、子供のいない人はこの制度をどう思っているのか気になると言っていた。私は、自治体単位で助成を受けられる金額や年齢に差があることが気になった。

医療保障は全員に平等に必要なだ。だからこそ、税金が担っている役割は非常に大きいものだと思った。医療は私たちにとって欠かせないものだが、調べていくうちにその医療に使われる税について問題があることが分かった。

まず、救急車の出動件数が増加していること。その主な理由の一つが緊急性が低いと思われる傷病者の増加であった。軽い症状でも救急車を利用すると、救急車の運用に使われる税金が増えるだけでなく、本当に救急車が必要な人への救急車の到着が遅れることになる。救える命を救うためにも救急車を適性利用する必要がある。

近年は少子高齢化で、使う金額は増えているのに、入ってくる金額は減っているため、今のままでは日本の財政は厳しい状態になるのも大きな問題である。

調べを進めるうちに、私はこれからの未来が不安になった。医療費に充てられる税金が減ると、自己負担が増える。また、救急車の有料化等により、緊急性の高い病気に対して救急車を呼べない人や、そもそも病院に行って治療を受けられない人が増えるかもしれない。

今まで税金に対し、ただお金を払っているだけという悪いイメージが強かったけれど、税金は、なくてはならない存在であることに気付かされた。税金の意味や目的をもっとたくさんの人に知ってほしい。私はまだ中学生で税を払うことに関わる機会は少ない。けれど、調べたり、知ったりすることで、税に関わることができる。消費税を払うことも今なら、私も国を支えている一人になれているのかな、と誇らしく思える。そうやってまずは調べたり、考え方や見方を変えてみたりすることが、よりよい日本をつくっていく第一歩になると思う。